

コロナの中でも「V・W」を忘れずに

大規模な感染拡大が心配されている本格的な冬の到来を前に、ここにきて全国的に感染者数が急増してきました。テレビのニュースは、連日「今日も過去最多を更新しました」と報じています。再び緊急事態宣言が出されて社会経済活動が制限されてしまうのか、学校が休校になってしまうのかと、大人も子供も不安を感じています。いつまで出口の見えないトンネルの中に閉じ込められているのかと思うと気分が憂鬱になります。気持ちも先に向かわなくなります。

しかし、皆さんには将来の夢や目標があるはずです。たとえ、この閉塞的な状況の中でも、皆さんは自分の将来のために、今やるべきことをしっかりやらなければなりません。そこで、皆さんの将来の夢や目標を実現するために役に立つと思われる話を紹介します。

京都大学の山中伸弥教授が、IPS細胞の研究で2012年にノーベル生理学・医学賞を受賞したことは皆さんもご存知だと思います。IPS細胞は日本語で、「人工多能性幹細胞」といい、主に「再生医療」の分野で人類に多大な貢献をするものです。山中教授をはじめとして多くの人の努力によって作製技術が生み出されました。

山中教授がアメリカのサンフランシスコの研究所で所長のメアリー先生に学んでいた1993年のある日のことです。メアリー先生は、研究所に在籍する人を集め、「VWが大切だ。研究者として成功する秘訣はVWだ。VWさえ実行すれば、君たちは必ず成功する。研究者にとってだけでなく、人生にとっても大切なのはVWだ。」と話したそうです。

Vは「Vision」、Wは「Work Hard」です。この意味は「目的をはっきりもち、それに向かって懸命に働く」という意味です。

働き方改革の急速な進展と新型コロナウイルスの感染拡大の続く中で、今は従来とは少し異なる様相を見せていますが、日本人は「Work Hard」が得意で、夜遅くまで働く人、土日も働く人が大勢います。しかし、いつの間にか目的を失い、なんのために働いているのかわからない状態に陥ってしまう人も少なくありません。山中教授自身にも当時そういう自覚があったので、メアリー先生のVとWの教えが心に響いたそうです。そして、日本人にとって不得意な「Vision」を育てたい、それには教育が大切であると強く感じたそうです。

皆さんが社会に出て行く頃には、ますますグローバル化や情報化が進み、常に世界を意識して仕事をやる時代になっていることと思います。ですから、皆さんには、自分の夢や目標を叶えるためにも、そして、世界で活躍する人となるためにも、是非とも「Vision」と「Work Hard」の意味するところを考え、実行してほしいと思います。そのためにも、まずは、自分で考えることと自分でアイデアを出すことを心掛け、どうしたらできるようになるのか、指示待ちでなく、常に自分で考える習慣を身に付けて欲しいと思います。そして、その上で、「VとW」、つまり「目的をはっきり持ち、それを実現するために懸命に努力する」ことを続けていって欲しいと思います。